

## ロシア対アメリカ：力の使用と乱用の教訓

【訳者注】一つ前に紹介した評論と基本的に同じ主旨であり、他にも同趣旨の評論が多い。二人の演説の内容が、きっぱりと「鋭い対照をなしている」。マタイ伝 13 章にある比喻、毒麦と良い麦の区別が、予言通り、これほどまでに明らかとなった。どちらが刈り取って燃やされるか、ここに至っても、判断できないと言う人はいないだろう。それとも、人は処世を重んずべきで、「超現実的（シュールレアル）な論理」だろうと、嘘つきだろうと、暴力団だろうと、アメリカについていけば間違いない、と言う人がいるかもしれない。当分はそれでよいかもしれない。しかし遠からずそれは、処世の術でさえなくなるだろう。

後の方の写真はどのような光景だろう。プーチンが論じ、オバマが素直に聴いているようにも見える。オバマの演説の内容が全く本心なら、こんな場面は生じえないように思える。

By Christopher Black

Global Research, October 5, 2015



で

国連総会への両主要国リーダーによる演説を聞くのは、武力の使用と乱用についての教訓であった。ロシア連邦を代表するプーチン大統領の総会演説は、米合衆国を代表するオバマ大統領の演説と、鋭い対照をなしていた。プーチン大統領が、国際世界秩序と安全保障システムは、国連憲章に規定された原理に依存すると強調したのに対し、オバマ大統領は、アメリカ合衆国は、アメリカが“暴君”と定めた者に苦しめられている国家の国民に、“安全保障を回復してやる”ためには、国家主権を無視する権利をもつという、馬鹿げた主張を行い、アメリカは単独で、または同盟国とともに、何があっても、こうした目的を達成するだろうという、ブッシュ・ドクトリンを繰り返した。

オバマはまたしても、ロシアのクリミアとウクライナ“侵略”を非難し、イランが中東でテロを援助していると非難し、中国が南シナ海で国際法を侵犯していると非難し、キューバとその国民を、アメリカの課した輸出禁止方針に“協力”しないと非難し、またしても、シリアのアサド大統領を追放すべきだと呼びかけた。彼は、アメリカは、自分がそうすべきだと思えばどこでも、不法な制裁を課す権利があるという主張を繰り返し、あっと驚くような歴史と事実の逆認識によって、アメリカは国連が設けられて以来、世界で平和を護ってきたと主張した。



オバマ大統領の与える印象は、怒りっぽい街の暴力団が肩を怒らせて歩き、もしお前らすべてがアメリカに“協力”しなかったら、アメリカの軍事力が黙っていないぞ、と言っている凶だった。彼は、過去70年の世界中での「恐ろしい衝突」について話したが、アメリカがそのほとんどの火つけ役だという事実には、決して触れなかった。そして三度目の大戦を防いだと主張したが、過去に何度もその脅威をつくり出し、ドイツ領土に高性能核兵器を配置して、現在もその脅威を与えているのは、アメリカである。彼は、アメリカに協力しないで、アメリカの覇権にあえて抵抗する者たちの被る、代価の大きさを語った。そして完全な真顔で、アメリカによって課せられる秩序は、世界のすべての人々に、尊厳と平等をもたらしたと主張したが、1%の者だけがカネをもっていき、残りの我々が仕事のすべてをやるということには言い忘れていた。

オバマは、難民危機の責任を、その原因となった彼の政府から、“強い者たち”に転嫁した。明らかにこの危機は、彼の説明によれば、サダム・フセイン、ムアンマル・カダフィ、それにアサド大統領によるもので、彼らがアメリカ政府を刺激して、攻撃させるようなことをするからだという。これが、アメリカ政府が正当化できないものを正当するのに用いる、超現実的な論理である。それから彼は、メディアの統制、政治的反対派の抑圧、それに情報へのアクセスのコントロールを、ロシアのここのようにあげたが、こうしたことはすべて、アメリカとヨーロッパで起こっていることである。次に彼は、ロシアに対する不法な制裁を正当

化しようとして、それは効き目を発揮して、この国が苦しんでおり、その反応としてロシア人が祖国を逃げ出していると言った。彼がそういうことを言うとき、自分が国連憲章にビンタを食らわせているのを忘れていたようだった。なぜなら、一方的制裁は国連憲章違反だからである。しかし、おそらく、こういう言葉で示す軽蔑は、国連とそれが象徴するすべてに対する、公然たる、故意の挑戦と考えるべきであろう。

プーチン大統領は反対に、この誤った歴史認識と、現在の世界的危機の原因についての誤った説明を退けて、その責任を、本来あるべき、アメリカとその NATO 同盟国の玄関先に積み上げた。彼はまず、国連の概念は、ヒトラーとの戦いの最中に、クリミア半島のヤルタ会談で起こってきたもので、国連は紛争の防止を試みる長い歴史をもっていることを、思い出すべきだと言った。彼は、アメリカ政府とその同盟国が、国連の無能さを嘆いていることを認めたが、それは実は、自分の思い通りにならないという意味であり、見解の違いは国連の創設時から不可避として認められていること、そして拒否権が必要なのは、いかなる単独の強国も、残りの国を支配することがないようにするためだと強調した。また彼は、アメリカとその同盟国は、自分たちの利害が関係する時には、拒否権を行使するということが長く続いたと言い、どんな国家でも、国連を無視し、また国連憲章に違反する国は、国際法の外で不法行為をしていることに注意を喚起した。さらに、冷戦の終結以来、アメリカは世界のすべての権力を要求してきたが、もしこれを受け入れたら、世界は利己主義によって——平等や民主主義や自由でなく、独裁命令によって——支配され、独立国家は事実上、保護領になってしまうだろうと付け加えた。

国家主権というものは存在しないという、アメリカの立場と明確な対照をなして、彼は、国家主権は一つの国家とその国民の自由な発達にとって、不可欠なものだという国際法の原理を再確認した。この点を説明するのに、彼は、中東と北アフリカにおける、アメリカの侵出を例にとり、この地域の国々の人々にとって、その結果は、安定した政府どころか、混乱と絶望であること、この侵出は、イスラム国や他のテロリスト集団の、台頭のきっかけとなったものだが、しかも、これらテロリストは元々、攻撃されている世俗的国家に向けて使う道具として、西側がつくり出したものだと説明した。彼は、西側が、難民危機に対処しながら、同時に、イスラム国や他のテロ・グループを財政支援していることの、偽善を非難した。彼は繰り返して、これらの集団と本当に戦っているのは、アサド大統領の軍隊とクルドの民兵たちだけだと説明した。彼は、ロシアはどんな野心も持たないが、「我々は世界の現在の情勢に、これ以上耐えることはできない」と言った。

現在の中東の危機に対処するために、彼は、対ヒトラー連合軍に似た、広い、対テロリスト連合を作ることを提案した。彼はまた、イスラム諸国と宗教指導者の協力を呼びかけ、この共通の敵と戦うよう求めた。そして国家主権が破壊されたところでは、それが回復されねば

ならず、難しい場合には、軍、経済、および物的支援が、それらの国々に与えられねばならないこと、そしてこれは、国連憲章と国際法に則ってなされねばならないと述べた。この点で、彼が特別に名をあげたのは、リビア、イラク、シリアだった。彼は、地球的安全保障の必要を強調し、冷戦後の NATO の拡張を非難し、アメリカが東ブロック諸国に提出した、西側につくか東側につくかという虚偽の選択を非難し、この攻撃的ロジックこそ、ウクライナの地政学的危機に火をつけたもので、そこでは民衆の不満が西側に利用されて、内戦の原因となった、外部からの軍事クーデタが起ったのだと、正しく説明した。彼は、ロシアが 2015 年 2 月 12 日のミンスク合意を、この危機の唯一の脱出策として支持すると繰り返し、ドンバス地区の人民の利益と権利を考慮し、彼らの選択に敬意を払い、キエフ政権の取るすべての行動は、彼らと調整されたものでなければならぬと繰り返した。

彼は次に、世界の権力闘争、経済前線の現実に焦点を移し、自由貿易と投資、それに公開競争という、世界貿易機構の原則を用いた、経済協力のための共通のスペースがなければならぬ、ところがアメリカ政府は、現在、世界貿易機構を無視しようとしており、オバマがずっと自慢していた、環太平洋パートナーシップ (TPP) のような、分離した、秘密の機構を作ろうとしていると述べた。また彼は、一方向的な制裁を用いることを、国連憲章に違反するものと弾劾し、この制裁は政治的圧力かけるだけでなく、経済的競争者をなくするために利用されていると言った。これらの傾向は、貿易システムのバランスを完全に崩し、地球経済スペースの崩壊を引き起こすものだ。一方、ロシアは、調和的な地域経済、普遍的で透明な国際貿易のルールに基づく、彼のいわゆる「統合の統合」(integration of integrations) を提案している。彼は、“ユーラシア経済連合”と中国の“シルクロード経済ベルト”を連結させる案を提出し、それらと欧州連合 (EU) の更なる統合を呼びかけた。

最後に、オバマがその演説で、気象変動の問題にリップサービスを払ったとき、彼は温室ガス放出の削減には、具体的な関心を示さなかった。中国は、2005 年のレベルの 40% だけ、彼らの放出を減らそうと提案した。プーチンは、それ以上の約束をし、2030 年までに、1999 年レベルの 75% をカットすると言った。しかし彼はさらに一步を進めて、自然から靈感を受けた基本的に新しい科学技術を呼びかけ、人間の活動と自然のバランスを回復するために、自然と調和できる産業の発達を目指そうと提案し、気象変化に取り組む、特別国連フォーラムを呼びかけ、ロシアは、そのようなフォーラムの共同スポンサーになる用意があると声明した。

そこで我々は、これら 2 人の人物のスピーチに表明された、二様の世界像をもつことになる。オバマはアメリカを代表して、自分勝手に行動する権利を主張し、抵抗のある場合は軍事力によってそれを強制し、何が何でも経済的な有利さを自分のために確保し、そのすべての根底に、平等な主権国家として他国を扱うことへの拒否を認めた。一方、プーチン大統領

は、国際法を厳密に守ること、テロリズムや、平和への脅威に対する共同の努力、統合された経済協力を呼びかけ、そのすべての根底に、国家主権と、国家や国民の尊厳の原理があると主張した。この衝突は明確に描かれ、はっきりと線が引かれた。この基本的な衝突がどのように解決されるか、やがて我々は結果を見るであろう。